

昔、氷川町には『火の君』という豪族が住んでいたといわれています。
全盛期には佐賀県・長崎県(肥前国)まで支配が及びました。
その『火の君』の墳墓と考えられているのが、野津古墳群や大野窟古墳です。

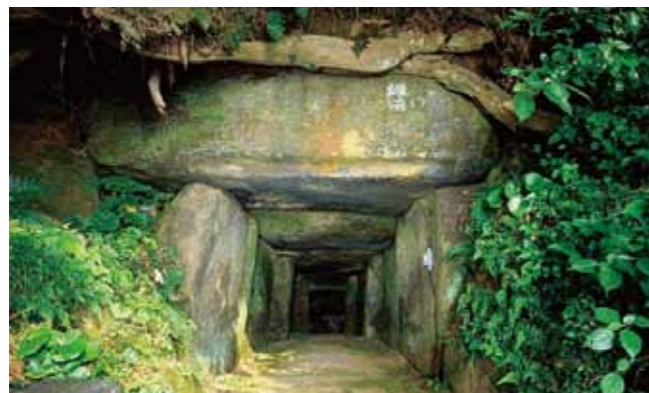
野津古墳群(のづこふんぐん) 6世紀初頭～中頃 国指定史跡

姫ノ城古墳・中ノ城古墳・物見櫓古墳・端ノ城古墳の前方後円墳4基からなる古墳群です。長さ60～100mもあり、この時期の大きな古墳が密集して存在するのはとても珍しいことです。



大野窟古墳(おおののいわやこふん)
6世紀後半 国指定史跡

長さが約123mの前方後円墳で、これは、県内で最も大きな古墳です。横穴式石室を持っており、その高さ6.5mは全国でも有数の高さを誇っています。



大王山古墳 第3号
(だいおうざんこふん) 県指定史跡

古墳時代の前期(4世紀～5世紀)の様式と思われる古墳です。直径30mの円墳で、竪穴式石室に舟形石棺が納められ、石棺と板石積の間から直刀一振が出土しました。



早尾のスッキョン行事 無形文化財

早尾地区に今なお伝承されている、大きな男性性器の模型が使われる成人式の奇習です。かなり珍しい儀式で、昭和56年文化庁により、『国選択無形民俗文化財』に選定されました。現在では、地区の消防団への入団の際の儀式として行われています。



内田康哉
うちだやすや

1865年(慶応元年)、北鹿野に生まれ、若干12歳にして同志社(現:同志社大学)に入学。1887年(明治20年)に東京帝国大学政治学科を卒業した後は外務省に入省し、外交官として世界各地から第一流と名声をうたわれました。第2次西園寺公望内閣で外務大臣に就任して以来、5度の外務大臣を務めました。満州国を承認し国際連盟脱退の道歩み『焦土外交』の名を残しています。



光永星郎
みつながほしお

1866年(慶応2年)、西野津に生まれ、旧宮原町の寺子屋や旧小川町の大槻英興の元で学んだ後、軍人を志すものの足が不自由になり挫折。その後、日清戦争では従軍記者として戦地に赴任。その経験から、日本を代表する広告会社『電通』の前身となる『日本広告株式会社』と『電報通信社』を設立。『健根信』を終身の信条とし、広告業と通信業の近代化に尽力しました。他方、1933年(昭和8年)には貴族院議員に勅選され、多方面で活躍しました。



上田碩三
うえだせきざう

1886年(明治19年)、宮原栄久に生まれ、明治42年『電通』入社、通信部長として、パリ講和会議、ワシントン軍縮会議など国際報道に活躍。昭和11年同盟通信社の発足に伴い常務理事、編集局長を務めました。戦後電通社長となりましたが、昭和24年UP通信社副社長マイルス・ボーン氏と東京湾で遭難死。優れた国際ジャーナリストに贈られる『ボーン・上田賞』は、二人の功績を讃えて設けられました。

秋山幸二
ギャラリー

氷川町出身で、西武ライオンズ、福岡ダイエーホークスで活躍し、福岡ソフトバンクホークスでも監督としてチームを日本一に導いた秋山幸二氏。同氏のこれまでの偉業を顕彰するためギャラリーを開設し、2000本安打達成のバットやゴールドングラブなど、貴重な品が多数展示されています。クイズコーナーや映像コーナーなどもあります。

